

- 1 日 時 令和5年6月1日(木) 5校時目
- 2 学 年 第3学年 5名 第4学年 4名 計9名
- 3 ねらい 相手の立場や状況を理解することの大切さについて考えることを通して、互いを理解し尊重し合おうとする態度を養う。
- 4 主題設定の理由

教材観

第3学年及び第4学年の指導内容 B- (10) 「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にすること」を基に設定した。

人は、自分の考えを正しいと信じ、異なる意見や立場、状況を受け入れることが難しくなると、他人の過ちや不十分なことを許せなくなること多い。これは、自分の思い通りにならない相手の行動が、どのような気持ちや考え、状況で行われたものなのか、相手に自分を重ねて考えることができないからである。至らない自分に気づき、トラブルの原因が互いの考えや気持ちの理解不足であることに気づかせることで、相手のことを考えた態度や、互いがよりよく生きる姿について考えさせることが大切である。

本教材のこう太は、約束を破ったかずやを責めるが、守れなかった理由を知ることで、相手の状況や思いを正しく理解していなかったことを後悔する。教室の隅で、寂しそうに座るかずやを見るこう太の思いを中心に話し合うことを通して、相手の状況や考え、思いを正しく捉え、過ちを許し、互いが理解し合うことでより良い人間関係が築かれていくということを考えさせることに適した教材である。

児童観

指導観

指導に当たっては、挿絵を活用し、こう太が怒っている原因について押さえる。お母さんの言葉でもかずやのことを許せなかったこう太が、こういちからかずやの来られなかった理由を聞いた後、教室の隅で、寂しそうに座るかずやを見るこう太の思いを話し合わせる。後悔しているこう太の思いを考えさせることを通して、相手の状況や考え、思いを正しく捉え、過ちを許し、互いが理解し合うことでより良い人間関係が築かれていくということを考えさせたい。

展開後段では、トラブル解決のために大切なことを考えさせることを通して、こう太だけでなくかずやも気持ちを伝えることの大切さについてふれたい。二人の立場から考えることで、相手のことを考えて行動することの大切さ、互いを理解し、尊重し合おうとする態度を養っていききたい。

5 本時の展開

(1) 評価について

【評価の観点】 こう太の思いや考えを話し合うことを通して、相手の立場や状況を理解することの大切さについて考えを深め、自分の生き方について見つめようとしていたか。

【評価の方法】 発言・道徳ノート

(2) 準備物

挿絵

(3) 展開

	学習過程	主な発問と予想される児童の心の動き 【○基本発問 ◎中心発問】	指導上の留意点(○) 準備物など(●) 評価(★) 対話場面(△)
導 入	① 「学習テ マの提示」 1 本時の学 習への興味 や関心を高 める。	○友達とトラブルになったことがありますか。 【日常生活とのつながり】 ・ある。約束をしていたのに、守ってもらえなかった。	○自分自身の生活について振り返り、本時の学習への関心を深める。 ○様々な意見を出し合えるような雰囲気を作る。 ○良いことではないので、言いにくい場合は、教師がみとっていた過去の事例を出す。
展 開	② 「追求活 動」 2 教材「ちこく」の内容を知り、話し合う。	○こう太はどうしておこっているのでしょうか。 ・かずやが来なかったことが気になって集中できなかった。 ・試合に負けてしまった。 ◎さびしそうなかずやを見ているうちに、こう太はどんなことを考えたのだろう。 ・弟のかんびようがあったのなら、仕方がなかった。 ・理由を言おうとしたかずやの話を、きちんと聞けばよかった。 ・話も聞かずに、すぐに怒ったりしなければよかった。 ・チームをやめさせなければよかった。 ○何がいけなかったのだろう。 ・かずやのことを理由も聞かずに一方的に責めたこと。 ・理由も聞かずにやめさせたこと。 ○どの場面で、どうすればよかったのだろう。 ・かずやが「ごめんね。早く来たかったんだけど…」と言った時に、わけを聞けばよかった。 ・わけを聞いて、「次はおくれしないで。」と言えればよかった。 ・わけを聞いて、チームをやめさせたりしなければよかった。	○場面絵を使いながら、登場人物や場面の状況を捉えられるようにする。 ○寂しそうなかずやを見るこう太の気持ちの変化から、相手の立場を尊重する大切さについて実感を伴って考えることができるようにする。 ○問い返しの発問をすることにより、気付かせる。 ○こう太がしてしまった行為を責めるのではなく、どのような気持ちが必要だったかもあわせて考えさせる。 ★相手の立場や状況を理解することの大切さについて考えているか。(発言、道徳ノート) ○かずやの行動についても考えさせる。

		・かずやも、理由を伝えればよかった。 ○いじめや仲間外しをせず、相手と仲よく活動するために、そのような考え方を大切にしたいですか。(ペア学習設定) ・約束は、できるだけ守る。 ・何かあったら、きちんとわけを聞く。 ・相手の話をちゃんと聞く。 ・相手に悪いことをしたら、謝る。	△ペアでの対話場面を設定する。 ○ペアで出た意見をまとめ、全体で確認する。 ○自分に関わりのあることとして具体的な自身の経験を振り返らせる。 ★自身の経験を振り返り、相手の立場や状況を理解するために大切なことを具体的に考えているか。(発言、道徳ノート)
終末	③ 「児童一人一人のふりかえり」 3 本時の学習から自分たちの生活について振り返る。	○今日学んだことはどんなことだろう。 ・きちんと理由を聞くことが大切。 ・すぐにおこって、チームをやめさせたりしないことが大切。 ・相手の立場になって、ゆるすことも大切。	

6 板書計画

○相手と仲よく活動するためには

相手のことを考える

- ・約束は、できるだけ守る。
- ・何かあったら、きちんとわけを聞く。
- ・相手の話をちゃんと聞く。
- ・相手に悪いことをしたら、謝る。

○どの場面で、どうすればよかったのだろう。

・かずやが「ごめんね。早く来たかったんだけど。」と言った時に、わけを聞けばよかった。

・わけを聞いて、「次はおくれれないで。」と言えればよかった。

・かずやも、理由を伝えればよかった。

○何がいけなかった？

・かずやのことを理由も聞かずに一方的にせめた。

・理由も聞かずにやめさせた。

○さびしそうなかずやを見ているうちに、こう太はどんなことを考えたのだろう。

・弟のかんびようがあったのなら、仕方がなかった。

・理由を言おうとしたかずやの話をきちんと聞けばよかった。

・話も聞かずに、すぐに怒ったりしなければよかった。

・チームをやめさせなければよかった。

六月一日(木)

相手のことを考えて

⑦ ちこく

友達とのトラブル

・約束をしていたのに、守ってもらえなかった。

○こう太はどうしておこっているのでしょうか。

・かずやが来なかったことが気になって集中できなかった。

・試合に負けてしまった。

場面絵

場面絵

【事後研修のまとめ】

* 授業者の振り返り

- ①発問の検討（発問を絞り込んでいたか。問い返し発問が適切であったか。）
 - ・発問の順序について考え、流れがスムーズになった。
 - ・問い返し発問「どうすればよかったのか。」を具体的に考えさせることにより、より自分のこととして考えることができていた。
- ②対話場面の設定が有効であったか。
 - ・展開後段に設定することにより、自分たちの生活の中でのことについて、より深く考えることができていた。
 - ・対話した後の交流方法を検討していく必要がある。（ICT の活用等）

成果

- 「どの場面で、どうすればよかったのだろう。」と具体的に考えさせることにより、自分なりの考えを深めることができた。
- 何がいけなかったかを聞く問い返し発問をすることで、次の発問が考えやすくなった。
- 事前研修でのアドバイスをもとに、対話場面を後半部分に取り入れたことで、内容について自分自身の考えをまとめることができた。

課題

- 発問が重なった部分があり、深く考えさせることにはつながったが、同じ内容を何度も考えることになった。
- 朗読CDを使うと、児童の様子などを観察できるなど、ICTの活用について検討する必要がある。

